

先月の十三日に野洲市長選が投票、即日開票され、我々が推す現職栢木候補は、事前の予想を覆し、僅差ではなく惨敗しました。

この結果を、どう分析し、今後にどう活かして行くのか、経営者としても参考になる点が多いと思います。

四年前の初当選時の、最大の選挙公約である、「野洲市民病院の現地建替え・建築費用半額」が、諸条件の影響で実現できなかったことが、後々まで尾を引いたと考えられます。

早い段階で公約が実現できない理由を、市民に丁寧に、何度も説明し、納得してもらおう努力を怠ったことが、事情を知らない市民には、短絡的に「公約違反」に見えたのだと思います。

市議会での真剣な討議や、役所内での綿密な打ち合わせ等の事情を知る者には、十分議論を尽くしたと理解できますが、それを市民目線では、見えなかったのだと思います。

応援する側も、現職有利という漠然とした楽勝ムードに、甘んじた面があることも事実です。

栢木市長の四年間の実績は、周辺市長が舌を巻くほどの圧倒的ともいえる素晴らしいものがあります。例えば、「ふるさと納税」は、それ以前の年度は、五十万円・百万円という県内十九市町の下から二番目であったものを、年度十六億円、近江八幡市に次ぐ県下二位に大躍進させたこと。市の財政が逼迫する中で、この点だけでも、十分合格点であるといえます。

「県立高専」を、誘致に手を挙げた他の市町を抑えて、野洲市に誘致したこと。また、県立高専に隣接する「十万㎡の国有地」を、公園などに転用し無料で使用できるようにしたこと。

紆余曲折はありましたが、十二年余に渡り、市を二分した「市民病院」に、一定の方向を示したこと。等々。

これらの実績は、玄人受けするが、広く市民には伝わり切らなかったことが敗戦の大きな原因といえます。

「勝ち負けは時の運」ただし一貫した信念・正義を貫く姿勢は不変であること。

トップに立つ人間には、ブレない判断基準「帝王学」が必要です。

「民は之を由らしむべし。之を知らしむべからず」(論語)とあります。

市政の全てを、市民に完璧に伝えることは不可能である。だから、市長は、「この男なら、嘘をつかない、信用できる」と思ってもらえる「日頃のビヘイビアが大切であること。巷間、この意味を曲解し、本当の事は市民に教えないという解釈があるが、これは誤りです。そもそも性善説を説く孔子が「愚民政策」を教えるはずがありません。天が命ずれば、捲土重来を期してもらいたいと願っています。

今月のポイント

- ・知る↓できる↓伝える。
- ・常に市民の声を聴くこと。

